

652号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港
福会館 5階

Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622

メール roren@kensu.jp

ホームページ http://www.kensu.jp/

全国検数労働組合連合
書記局

全国 検数労連



第52回 検数労連定期大会開催!

コロナにも負けず、どんな環境の変化にも揺らがない強固な組織基盤の構築を

9月17日・18日にかけて、ホテルシーパレスリゾート豊橋で第52回全国検数労連定期大会を開催し、19年度運動の到達点と総括、20年度運動方針(案)について、活発な議論が交わされました。また、今定期大会については新型コロナウイルス感染症拡大を警戒した中での開催となったため、来賓を呼ばず、オンラインでの開催となりました。

そのような状況ではありましたが、全労連関係や中央港湾労働関係、地域港湾労働関係、検数共闘関係の皆様から激励のメッセージを多数送っていただいたことに、紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。

【19年度経過と総括】

19年度の運動の経過については、19秋闘から20春闘前半にかけて、関係する諸団体と連携をはかりながら様々な行動に力を注いできましたが、2月後半以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、行動全般の自粛を余儀なくされた一年でした。このことは20春闘や20夏季一時金闘争などにも大きく影響し、検数経営からも「コロナ禍による収支悪化」などが前面に出されるなど、闘争の中で要求を抑え込もうとする『事業計画の範囲内』という攻撃を打破することに困難を極めました。

【地域から意見】

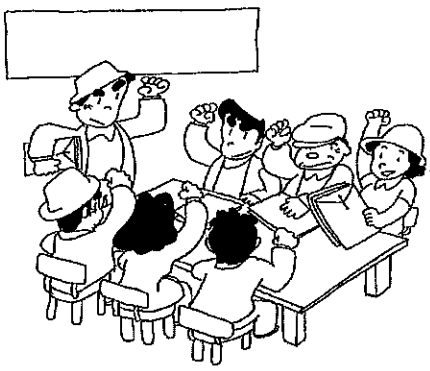
各地域からの主だった意見としては、20春闘については昨年を大きく

く下回る回答に職場から落胆の声が出ていることや、賃上げ回答に対して、将来不安を抱えている若い世代もいること。「コロナ禍」で交渉の中断期間があったとはいえ、有額回答から地域の意見集約までの期間が短すぎて十分な職場議論が出来ていないことなどが挙げられました。

【中央答弁】

20春闘については「コロナ禍の影響を受け、港湾産別春闘の中断もあったこともあり、結果的に20夏季一時金交渉と同時並行で進めざるを得ない状況下でありましたが、職場での意見集約できない状況を作ってはならないとの認識でいるため、日程的なものをきめず丁寧な組織運営を心掛けていきたいと思っております。

賃上げ回答や一時金回答に対する不満や将来不安については、若年層だけではなく全ての組合員からの意見として受け止めています。



【20年度運動方針】

現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、労働者のいのちと健康が危ぶまれて、生活と暮らしの先行きに暗い影を落としています。検数労連として、これまでの運動と学習の積み重ねに確信を持ち、直面する課題に即応した運動が求められていることから、あらためて中央・地域・支部が連携をはかりながら『雇用・職域の維持 拡大』『生活の安定』に向けた経済要求の前進、『組織強化 拡大』『平和を守る運動の展開』の4点を基調とした運動の前進をはかっていくことを確認しました。

具体的な取り組みとしては、全組合員の声を結集させながら全国港湾・全労連・国民春闘共闘・交通共闘など連携をはかり、共同行動を基本に平和と民主主義 国民本位の政治への転換を求めて行きます。経済要求の前進に向けた取り組みでは、全組合員が一丸となって「コロナ危機を跳ね返し」「仕事と収入の確保」「運動を日常活動の実践と結合させながら、安心して働き続けられる賃金と時間外労働に依存しない賃金の確立、安定した一時金の確保」に向けた『経済要求の前進』をはかっていくことを目指します。

組織強化・拡大に向けた取り組みでは、日常活動の強化が求められるとともに、職場環境の改善や職場諸要求の前進に向けた『職場懇談会』や『学習会』を通じて職場の声を取りまとめ、いく等の動きが極めて重要となることから、全組合員が一丸となって組織強化・拡大を目指していきます。

産別運動の取り組みでは、政策課題として『認可料金・港湾・インフラ』ド・デポ・ゲート業務。労働条件に採る課題では『安全衛生・定年延長・週休2日制・労働時間・労災補償』を取り組むことを確認しました。とりわけ『体制の合理化』といえる『港湾の自動化・機械化』については労働者の職域を奪うものとして『反対』の立場で取り組んでいきます。

【20年度中央役員体制】

- 中央執行委員長 瀬戸 修(再)
- 中央副執行委員長 山田 拓(再)
- 同 石井 和正(再)
- 中央書記長 光部 泰宏(再)
- 中央書記次長 石渡 周二(再)
- 会計監査 小室 平次(再)
- 同 福田 亮(新)

